

静岡河川事務所 所長様

前略

本年、5月に安倍川の治水に関する質問を差し上げた杉村和高です。その折には、ご回答を頂きありがとうございます。しかしながら、頂いた回答の内容は質問の意図から明らかに外れたものであり、誠実さに欠けていると思わざるを得ないものでした。全く残念な事でした。

失礼ですが、河川事務所の皆さまは、ごく普通の議論や論議に不慣れであるようなので、7月の回答では的を外した回答であったのではと考えました。そこで、再度の質問書をお送りします。今回の質問の意図は、前回と変わるものではありませんが、より容易に明確にご回答いただける内容にいたしました。

質問の前に少しお断りを致します。前回の質問ではお答えを副所長の〇〇〇〇様から頂きました。にも関わらず、今回の質問書では宛名を〇〇様では無く所長様にしましたのには事情があります。皆さんの職場では人事異動が頻繁にあるようです。ですから、副所長の〇〇〇〇様が現在もご在籍していらっしゃるかどうかが定かではありませんでしたので、宛名を役職名とさせて頂きました事をご了解ください。

私は、過去に幾度か静岡河川事務所様にお手紙を差し上げていますが、そのうちの何回かは役職名と個人名を違える失礼を致していますので、そのような事の無きよう個人名を記入しなかった事ご了承下さい。

なお、実際に人事異動があり、新たな担当の方が今回の事情を心得ないようでしたら、「河川上流中流の土砂流下と堆積の規則性を考える」(<https://keiryuu.sakura.ne.jp/index.html>)に、前回の質問書の事情と実際の内容及びご回答を掲載していますので、それらをご参照下さい。

質問の 1

江戸時代中期に、安倍川近隣の農民の中にアユの友釣りに勤しむものが多くいて農業の妨げとなっているから、アユの友釣りを禁止してほしいとの嘆願書が駿府の代官所に提出されています。その時期は、安倍川最上流部の大谷崩れが発生してから約150年後に当たります。この事柄は、私の論述

「河川上流中流の土砂流下と堆積の規則性を考える」(<https://keiryuu.sakura.ne.jp/index.html>)の第4章「コンクリート護岸」でも詳しく記述していますのでご参照下さい。

当時の安倍川の自然環境と現在を比較して、昨年(令和1年)の安倍川の自

然環境は向上したとお考えでしょうか。それとも変わらなかったのでしょうか。それとも悪化したのでしょうか。お答えください。

質問の 2

何年前であるのか良く覚えていないのですが、安倍川の水質が極めて優れている事を河川事務所の皆さんが盛んに喧伝していた時期があります。確か、日本一とか、三位であるとか言っていたはずです。記憶では、「BOD」が優れていただけでなく「濁り」も少ない事が強調されていたと思います。その当時と昨年（令和1年）或いは一昨年とを比べて、現在の安倍川の「治水状況」と「自然環境」は向上したのでしょうか、変わらないのでしょうか。それとも悪化したのでしょうか。

河川ごとの水質の比較は現在でも全国的に行われていて、安倍川はここ何年も最も良好な河川には選ばれていません。比較される項目は、主に「BOD」（生物化学的酸素要求量）のようですが、通常時に透明な流れである事が多い安倍川の場合では「濁度」（見た目の濁り度合い）も重要だと考えています。

何年かの間盛んに喧伝していましたので、河川事務所様にその資料が残っているはずですが、あるいは、記憶している職員もいらっしゃるかもしれません。もし年月が不明でしたら「静岡新聞」さまに問い合わせ頂ければ分かると思います。当時、私は「静岡新聞」でその記事を読んだ記憶があります。

この項目では、「自然環境」だけでなく、「治水状況」についても質問しています。この項目も質問1に関連していますが、上記と同様に第4章「コンクリート護岸」でも少し言及しています。

上記、質問1、2、のいずれも質問に該当する区域を、河口より22Kmの玉機橋より下流に限定しています。これは、広大な安倍川水系の全てを対象にした質問では、安倍川の状況に対する判断が明確でなくなる可能性を考えました。玉機橋より下流側の状況は安倍川水系の全ての状況を反映していると考えられます。また、下記で言及する「安倍川総合土砂管理計画」でも、その区域を調査の主要な区域にしています。

これらの質問はお答えを得るのも簡単であると考えますから、ひと月を目途にして回答を頂ければ嬉しく思います。

今回の質問内容はこの二点に限らせて頂きました。二つの事柄に対する河川事務所様の回答を頂いた後に、その回答に基づいてさらに論議を深めたいと考えています。不明とか、分からないとかの回答はありえません。

また、前回の質問書では、所長様や副所長様に限らず、静岡河川事務所に勤

安倍川の治水状況と自然環境は、全て静岡河川事務所さまがその責任を負っている事は静岡市民の多くが承知している事です。また、所長様や副所長さまの出身地がいずれであるか知りませんが、安倍川の清らかな自然環境が清水区の興津川と共に静岡市民の誇りである事を忘れないでください。

拝読しまして、その内容が安倍川の現状を調査して将来を展望したものである事を承知し、さらに、実際に何処にどのような工事を行うか或いは否かは全て河川事務所さまの采配次第である事も理解しました。

早々

— 66 —

[illegible]

3